

事業所名：

氏名：

主催：サンシャイン総合学園

到達目標	出来た	←	→	出来ない	気づき・学びを振り返りましょう
①認知症ケアの理念・倫理と意思決定支援					
1. 尊厳の保持、共生と予防、本人・家族視点の重視といった認知症ケアの理念を理解し、その意義を説明できる。					
2. 認知症の原因疾患とその症状の特徴、中核症状、心理的特徴及び行動・心理症状（BPSD）の発症要因について説明できる。					
3. 行動・心理症状（BPSD）にとらわれず、望む生活を実現するケアを行う姿勢を身につける。					
4. 認知症ケアの倫理原則について、活用の具体例を挙げることができる。					
5. 意思決定支援のプロセスについて具体例を挙げることができる。					
②生活支援のためのケアの演習 1					
1. 代表的なケア場面において認知症の生活障害とその背景にある中核症状を評価できる。					
2. 認知症の人の視点を重視した生活環境づくりが実践できる。					
3. 認知症の人の有する能力に応じたコミュニケーションが実践できる。					
③QOLを高める活動と評価の観点					
1. 認知症の人の心理的安定やQOLを向上するための活動の特徴を理解する。					
2. 生活の中で行う、認知症の人一人ひとりに合った活動の重要性を理解する。					
3. 活動の展開・評価の方法とPDCAサイクルを理解する。					
④家族介護者の理解と支援方法					
1. 在宅で介護する家族の置かれている状況や心理を理解する。					
2. 家族の介護負担の要因を理解し必要な支援方法が展開できる。					
3. 介護保険施設・事業所等の介護職員等としての家族支援の役割を理解する。					
⑤権利擁護の視点に基づく支援					
1. 認知症の人の権利擁護を目的とした制度を理解する。					
2. 認知症の人にとって適切なケア、不適切なケアを理解する。					
3. 身体拘束や高齢者虐待を防止しその役割を担い実践できる。					
⑥地域資源の理解とケアへの活用					
1. 認知症の人にとっての地域資源の意味と介護職員等の役割を理解する。					
2. インフォーマルな地域資源をケアに活用する提案や実際の活用ができる。					
3. フォーマルな地域資源を理解し、ケアに活用できる。					
4. 各種地域資源を活用し認知症の人が地域で自分らしく暮らし続けるための取り組みができる。					
⑦学習成果の実践展開と共有					
1. 本科目までの学習成果を実践に活用することができる。					
2. 自分と認知症の人のこれまでのかかわりのあり方を振り返ることができる。					
3. 自分自身の認知症ケア実践の課題や取り組みの方向性を明らかにすることができる。					

事業所名：

氏名：

主催：サンシャイン総合学園

到達目標	出来た	←	→	出来ない	気づき・学びを振り返りましょう
⑧生活支援のためのケアの演習2（行動・心理症状）					
1. 認知症の人の行動の背景を洞察しケアを展開できる。					
2. 認知症の行動・心理症状（BPSD）に対してチームで対応できる。					
3. 認知症の行動・心理症状（BPSD）にとらわれすぎず、生活の質を高めるケアを検討できる。					
⑨アセスメントとケアの実践の基本					
1. 支援過程における認知症の人のアセスメントの基本的視点を理解し、認知症の人が望む生活とそれを阻む身体要因、心理要因、神経心理学的要因等を明らかにすることができる。					
2. 認知症の人の望む生活像について事実を基に洞察し、その達成に向けた目標を設定できる。					
3. アセスメントに基づき、認知症の人の望む生活の実現に向けたケアの実践計画を作成・立案・評価できる。					
4. アセスメント及びケアの実践計画についてのケアカンファレンスを行うことができる。					
⑩自施設及び他施設実習の課題設定					
1. 研修で学んだ内容を生かして、現状のケアを評価することができる。					
2. 所属部署等に良い影響を及ぼすケア実践計画が作成できる。					
3. 認知症の人の望む生活像をアセスメントし、課題と目標を明確にできる。					
4. 自施設実習の課題解決に向けて、他施設実習を通して学びたいことを明確にすることができる。					
⑪自施設実習（アセスメントとケアの実践）					
1. 研修で学んだ内容を生かし、自施設・事業所を利用する認知症の人のニーズをアセスメントできる。					
2. 認知症の人の生活の質の向上を目的にしたケア実践計画を遂行できる。					
3. ケア実践計画をもとに職場の理解を得ながら、認知症の人の生活支援に関する実践が展開できる。					
⑫他施設実習					
1. 他施設の特徴や地域における役割を学ぶことができる。					
2. 他施設の認知症ケアの実践を学ぶことができる。					
3. 自施設実習の課題解決に向けた、手がかりを得ることができる。					
⑬自施設及び他施設実習評価 ※最終日に記入					
1. 実施したケア実践計画を整理し、他の受講者に伝えることができる。					
2. 他の受講者のケア実践計画が、認知症の人にとって有益なものであったか客観的に評価し助言することができる。					
3. 結果を分析し職場及び自己の認知症ケアの今後の課題を明確にすることができる。					
「集 計」 合計数					個 / 合計点数： 点
「総まとめ」今後の生かし方について、具体的に記入してみましょう。					
○記入の方法 左欄の【到達目標】について「出来た」⇔「出来ない」について自己評価について点数化します。左端から「3」「2」「1」「0」点とし、最終報告日で合計数と合計点数を出します。合計数とは、上から数えていき「3」○個、「2」▲個、「1」□個、「0」●個。合計点数はすべての点数を足した数字を入れてみましょう。 右欄の【気づき・学びを振り返りましょう】については、講義が終了し「振り返り」としてボールペンで書き込みしてみましょう。最後の報告会が終了し、【総まとめ】の部分には、事業所に戻ってから” すぐに出来そうな事” ” 時間がかかるけどやってみたい事” ” 人や費用がかかるけどやってみたい事” など、具体的に記載してみましょう。					